

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成30年2月9日
【四半期会計期間】	第129期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社たけびし
【英訳名】	TAKEBISHI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小倉 勇
【本店の所在の場所】	京都市右京区西京極豆田町29番地
【電話番号】	075(325)2111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 上席常務執行役員 経営戦略室長 亀井 孝
【最寄りの連絡場所】	京都市右京区西京極豆田町29番地
【電話番号】	075(325)2111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 上席常務執行役員 経営戦略室長 亀井 孝
【縦覧に供する場所】	株式会社たけびし大阪支店 (大阪市北区堂島浜一丁目2番1号) 株式会社たけびし東京支店 (横浜市港北区新横浜三丁目18番16号) 株式会社たけびし名古屋支店 (名古屋市中村区名駅三丁目8番7号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第128期 第3四半期連結 累計期間	第129期 第3四半期連結 累計期間	第128期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (百万円)	47,998	55,112	71,267
経常利益 (百万円)	1,826	2,476	2,570
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,300	1,682	1,818
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,436	2,466	2,185
純資産額 (百万円)	22,646	25,302	23,395
総資産額 (百万円)	36,365	44,912	43,594
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	88.41	114.36	123.60
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	62.3	56.3	53.7

回次	第128期 第3四半期連結 会計期間	第129期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.74	44.80

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。  
なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに決定し、又は締結した経営上の重要な契約等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績に関する状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界経済の回復を背景とした輸出の持ち直しや設備投資の増加に加え、雇用情勢の改善が進むなど緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況下、当社グループはF A機器をはじめとした基幹ビジネスの拡大に加え、電子ペーパー等の海外製デバイスビジネス、A I関連ビジネス、当社オリジナル商品を中心としたI o T関連ビジネス等の成長分野への取組みに注力してまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高551億12百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益24億23百万円（前年同期比36.8%増）、経常利益24億76百万円（前年同期比35.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益16億82百万円（前年同期比29.4%増）となりました。

#### <セグメント別の状況>

産業機器システム分野においては、半導体、電子部品等の製造装置向けF A機器、及び産業用加工機が好調に推移したことから、この部門全体では売上高前年同期比13.3%の増となりました。

半導体・デバイス分野においては、電子ペーパー等の新規デバイス商材が拡大したことに加え、産業機器関連向けの半導体が好調に推移したことから、この部門全体では売上高前年同期比16.5%の増となりました。

これらの結果、F A・デバイス事業においては、売上高400億7百万円（前年同期比14.4%増、構成比72.6%）、営業利益21億21百万円（前年同期比32.4%増）となりました。

社会インフラ分野においては、病院向け医療装置が増加したことに加え、冷熱・住設関連で冷凍・冷蔵設備が増加したことから、この部門全体では売上高前年同期比28.4%の増となりました。

情報通信分野では、主力の携帯電話、及びP C、サーバー等が増加したことから、この部門全体では売上高前年同期比3.7%の増となりました。

これらの結果、社会・情報通信事業においては、売上高151億5百万円（前年同期比16.0%増、構成比27.4%）、営業利益3億1百万円（前年同期比78.7%増）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ13億18百万円増加し、449億12百万円となりました。これは主に、前受金入金による現金及び預金の増加16億77百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末より5億88百万円減少し、196億10百万円となりました。これは主に、仕入債務の減少31億99百万円と前受金の増加24億30百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末より19億7百万円増加し、253億2百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加11億23百万円によるものであります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,280,000
計	28,280,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,798,600	14,798,600	(株)東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	14,798,600	14,798,600	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	14,798,600	-	2,554	-	3,056

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 83,700	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,712,300	147,123	同上
単元未満株式	普通株式 2,600	-	-
発行済株式総数	14,798,600	-	-
総株主の議決権	-	147,123	-

(注)1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社所有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄には証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

なお「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社たけびし	京都市右京区西京極豆田町29番地	83,700	-	83,700	0.57
計	-	83,700	-	83,700	0.57

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,930	5,607
受取手形及び売掛金	21,803	19,741
電子記録債権	3,609	4,168
有価証券	51	10
商品	4,560	4,992
仕掛品	47	77
繰延税金資産	356	227
その他	771	667
貸倒引当金	16	9
流動資産合計	35,114	35,481
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,256	1,172
土地	1,833	1,833
その他(純額)	108	89
有形固定資産合計	3,197	3,095
無形固定資産		
ソフトウェア	74	58
その他	31	27
無形固定資産合計	105	86
投資その他の資産		
投資有価証券	4,195	5,302
繰延税金資産	78	92
その他	915	862
貸倒引当金	14	7
投資その他の資産合計	5,175	6,249
固定資産合計	8,479	9,431
資産合計	43,594	44,912

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,557	9,667
電子記録債務	812	1,503
短期借入金	1,603	1,679
1年内返済予定の長期借入金	-	100
未払金	993	857
未払法人税等	607	398
前受金	156	2,587
賞与引当金	615	407
役員賞与引当金	-	130
その他	296	386
流動負債合計	18,643	17,719
固定負債		
長期借入金	100	-
長期末払金	115	102
繰延税金負債	612	905
再評価に係る繰延税金負債	7	7
役員退職慰労引当金	20	19
退職給付に係る負債	640	651
厚生年金基金解散損失引当金	-	157
資産除去債務	34	30
その他	23	15
固定負債合計	1,554	1,891
負債合計	20,198	19,610
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,554	2,554
資本剰余金	3,133	3,133
利益剰余金	16,966	18,090
自己株式	23	23
株主資本合計	22,631	23,755
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,840	2,623
土地再評価差額金	1,135	1,135
為替換算調整勘定	73	72
退職給付に係る調整累計額	14	12
その他の包括利益累計額合計	763	1,547
純資産合計	23,395	25,302
負債純資産合計	43,594	44,912



## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	47,998	55,112
売上原価	41,022	47,094
売上総利益	6,976	8,017
販売費及び一般管理費	5,204	5,594
営業利益	1,772	2,423
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	50	59
仕入割引	19	20
受取賃貸料	40	41
為替差益	-	6
その他	28	15
営業外収益合計	144	148
営業外費用		
支払利息	9	8
売上割引	49	62
賃貸収入原価	20	20
為替差損	8	-
その他	1	3
営業外費用合計	89	95
経常利益	1,826	2,476
特別利益		
投資有価証券売却益	172	244
特別利益合計	172	244
特別損失		
固定資産除売却損	1	3
減損損失	-	23
厚生年金基金解散損失引当金繰入額	-	157
特別損失合計	1	184
税金等調整前四半期純利益	1,997	2,536
法人税、住民税及び事業税	522	773
法人税等調整額	173	80
法人税等合計	696	854
四半期純利益	1,300	1,682
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,300	1,682

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	1,300	1,682
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	373	783
土地再評価差額金	-	0
為替換算調整勘定	242	1
退職給付に係る調整額	4	1
その他の包括利益合計	135	783
四半期包括利益	1,436	2,466
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,436	2,466
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(厚生年金基金解散損失引当金)

当社及び国内連結子会社の一部が加入する「京都機械金属厚生年金基金」(総合型)は、平成29年6月22日開催の代議員会において特例解散認可を申請することを決議しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間において、同基金解散に伴う損失見込額として、四半期連結損益計算書の特別損失に厚生年金基金解散損失引当金繰入額157百万円、四半期連結貸借対照表の固定負債に厚生年金基金解散損失引当金157百万円を計上しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

期末日満期手形等の会計処理は、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であり、当第3四半期連結会計期間の期末日満期手形等の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形及び売掛金	-	470百万円
電子記録債権	-	241百万円
支払手形及び買掛金	-	1,043百万円
電子記録債務	-	83百万円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	142百万円	140百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年4月28日 取締役会	普通株式	191	13.0	平成28年3月31日	平成28年6月13日	利益剰余金
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	235	16.0	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年4月28日 取締役会	普通株式	279	19	平成29年3月31日	平成29年6月12日	利益剰余金
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	279	19	平成29年9月30日	平成29年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	F A・デバイス事業	社会・情報通信事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	34,982	13,016	47,998
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0
計	34,982	13,016	47,998
セグメント利益	1,603	168	1,772

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,772
セグメント間取引消去	-
四半期連結損益計算書の営業利益	1,772

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	F A・デバイス事業	社会・情報通信事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	40,007	15,105	55,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0
計	40,007	15,105	55,112
セグメント利益	2,121	301	2,423

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,423
セグメント間取引消去	-
四半期連結損益計算書の営業利益	2,423

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

セグメントごとの固定資産減損損失額の計上額は、「社会・情報通信事業」において23百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	88円41銭	114円36銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	1,300	1,682
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	1,300	1,682
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,714	14,714

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成29年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....279百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....19円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成29年12月4日

(注) 平成29年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月5日

株式会社たけびし

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 尾 仲 伸 之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木 戸 脇 美 紀 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社たけびしの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社たけびし及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。